【 76 】

氏名	楠 戸 康 通
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 乙 第 2539 号
学位授与の日付	平成 5 年 3 月28日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	**慢性関節リウマチの股関節障害における臼底骨移植を併用した全人工股関節置換術の検討**
論文審査委員	教授 折田 薫三　教授 寺本 滋　教授 太田 善介

学位論文内容の要旨

慢性関節リウマチ（以下RA）に対して全人工股関節置換術（以下THA）を行う場合，臼底突出症や骨萎縮による臼底の脆弱性のため，ソケットのゆるみや中心性移動を起こすことがある。これらの対策としていくつかの方法が報告されているが，骨移植単独による臼底再建法の術後成績のまとまった報告はこれまでにみられない。

本研究ではRAにおいて臼底への骨移植を併用したTHA 23例30関節について，臨床的およびX線学的に評価を行い検討した。術後追跡期間は平均2年4ヵ月で，臨床的評価では総合点で術前32.7点から追跡時68.4点に改善した。X線学的評価でclear zoneの発生率は臼蓋側で60.0%，大腿骨側で46.7%で，1例にloosening がみられた。X線学的な移植骨の癒合は平均9.3ヵ月を要し，術後1年で大多数が癒合完成をみたが，1例のみcollapseをきたした。

臼底への骨移植法は，カップ支持器を用いなくても成績は安定しており，脆弱化した臼底の再建法として有用である。

論文審査の結果の要旨

慢性関節リウマチ時の全人工股関節置換術（THA）には，臼底の補強が必須である。本研究者は従来の方法とは異なり，自家骨によるsolid bone graftで臼底を補強し，その上にセメントを詰めTHRを行う生理的な手法を採用している。平均2年4月followしている。移植骨の癒合は約1年で完成し，24例30関節の中1例のみにloosening をみている

が，従来の同教室でのカップ支持器を用いてのTHAに優る成績を収めている。臨床上重要なる知見を得たので，本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。